



郵政産業ユニオン TOKYO

● 発行 ●
 郵政産業労働者ユニオン
 東京地方本部
 発行責任者 田中 孝史
 〒104-0031 中央区京橋 3-6-3
 京橋通郵便局 5F
 TEL・FAX 03-3535-5447
 piwutokyo@yahoo.co.jp

ただかいの

2020新春つどい開

歩みをさらに強く！！



主催者あいさつをする田中委員長

郵政ユニオン東京地本と関東地本は共催で1月12日文京区民センターで2020新春の集いを開催しました。組合員をはじめ退職者や地域の仲間など100名の参加で大いに盛り上がりました。

東京地本の田中委員長の主催者あいさつで始まり続いて中央本部日巻委員長のあいさつを受けました。新東京の東條支部長の乾杯の掛け声のもと歓談へと移りました。

来賓のあいさつでは東京地評の屋代事務局次長、全国全労協の渡邊議長、東京全労協の大森議長、寺島事務局長、そして、2017年に勝利判決を勝ち取った韓国サンケン労組の仲間が駆けつけてくれて連帯のあ

いさつと歌を披露してくれました。続いて東京法律事務所 青龍弁護士、日本共産党東京都議団の米倉議員、JAL争議団は行動が重なり参加はありませんでしたが、連帯のメッセージをいただき、代理として鮫島さんと8名の方にあいさつをいただきました。

続いて労働契約法20条の原告である浅川さんと宇田川さんが、最高裁判決勝利に向けて全力で闘う決意と高裁判決以降の追加訴訟についてアピールしました。また、新たに集団訴訟に立ち上がる仲間に参加した12名を紹介し、決意表明を受けました。続いて最低賃金の闘いのDVDを上映し、今すぐ時給1500円を目指そうと訴えました。



肩を組んでガンバローの大合唱

委員より連帯のあいさつを受けました。

お正月らしい催しとして東京地本VS関東地本の二人羽織、参加者全員によるくじ引き大会、うたごえの仲間による「翼をください」をはじめとする合唱と参加者も一緒に歌いました。

最後に関東地本の猪俣委員長との閉会あいさつと団結がんばろー。そして参加者みんなで肩を組んで輪となりガンバローを合唱して2020新春の集いは終了しました。

今年は労契法20条最高裁判決、20春闘の賃上げの闘い、かんぽ生命の問題と重要な年となります。東京地本、関東地本は全国の仲間と連帯して全力で闘い抜きましょう。



通常国会がはじまった。相変わらず、ズルズルと時間

を無駄に使っている人がいる▼「壊れたテーパーコーダー」戦術を駆使して、同じ答弁を何度も繰り返す。原稿を早口で棒読みする。安倍晋三さんである。隠ぺいした文章を提出し、自ら真実を語り、責任を取れば時間の無駄は省ける。▼新型コロナウイルスによる肺炎患者が世界的に拡大している。政府には、各国と連携し患者の人權に配慮しつつ、これ以上の拡大を防ぐことが求められる▼テレビでは連日大騒ぎだが、まさか安倍さんは国民の目が感染に向いていて、喜んだりはしていないと思うが▼「壊れたテーパーコーダー」は修理するか、新品を買うか、どちらかである。環境を考えると、できればゴミにしたくないが。安倍さんの場合は廃棄するしかない。(い)

ユニオンがんばれ!

20春闘アンケートからの「声・意見」紹介

- ・要員不足で八割勤務で体がますますこわれて定年まで働ける自信もないしストレスがひどく10割復帰もむずかしくほんとに辛い。
- ・とにかく要員不足の改善に取り組んで下さい。
- ・年々、新一般職の待遇が悪化の一途を辿っているように思われ、18.19春闘における妥結内容で、しわ寄せが来ているのは新一般職であると思う。
- ・現局に移籍して最悪から脱出には成功した。日々大変だが、やはり諸悪の根源は東京北部局だ。
- ・郵便経験の無い者を郵便の管理者に据えるのは余りにも無駄。
- ・管理者の人事がここ数年テキトーすぎる。
- ・賞与算出式にある0.3という数値はふざけていると思います。
- ・時給額の引き上げ。
- ・将来、深夜勤が減らされて収入が減るのかどうか・・・不安です。



第2回支部長 (支部代表者) 会議 のお知らせ

2月15日(土) 10:00~17:00
東部区民事務所(大塚)

- 議題 ①2020春闘の具体的取り組み
②組織の強化・拡大
③その他

第8回中央委員会での春闘方針の決定を受け、東京地本の具体的春闘行動を協議、決定します。各支部の参加をお願いします。

郵政ユニオン東京地本執行委員会

本を読む

「消された文章」「潔白」

 (青木俊・幻冬舎文庫)

たまたま、立ち寄った書店で、聞いたことの無い作家の名前と題名が目にとまり手に取り、思わず買ってしまったのがこの文庫本。「消された文章」は琉球の薩摩による支配と抑圧の歴史と、現代の沖縄の目米による支配、基地の押しつけをクロスさせ物語が進んでいく。

尖閣諸島に上陸し、失踪した警察官の姉の真相を、姉の婚約者であるキャリア官僚とともに追う新聞記者の妹。

一方で、中国皇帝が琉球に派遣していた冊封使が書き遺した「冊封使録」。今は消失した筈の記録。歴史的に、そして現代の沖縄にとって重要な記述が。

「潔白」は母娘惨殺事件よって最高裁で死刑判決が確定された被告の死刑執行の場面から、物語は始まる。その男性は無実を訴え再審の準備をしていたが、確定から2年という短い期間で執行されてしまう。

父親の無実を確信している、事件当時幼かった娘は、30年後、その証明のため奔走し始める。冤罪事件を多く扱っていたベテラン弁護士と「再審」を請求する。国家、裁判所、警察を相手に無謀とも思えるが。

当面の行動日程

- 2月1日 第15回地方委員会
20条裁判「過去分請求」地本対策会議
- 3日 最賃活動家になろう・養成講座・初級編
- 6日 「新3000万署名」呼びかけ大集会
- 7~8日 第8回中央委員会
- 8~9日 全国書記長会議
- 11日 東京地評公務部会
- 14日 東京総行動・経団連抗議行動
- 15日 第2回支部長会議
- 17日 地本20春闘要求提出日
- 3月1日 外国人労働者のためのけり総行動(マーチ・イン・マーチ)
- 3月2日 正社員化と均等待遇を求め本社前集会・院内集会
地本春闘キャラバン
- 5日 全労連・春闘共闘 春闘中央行動
- 20日 さよなら原発全国集会
(毎月19日は総がかり国会前行動)

両作品ともまるで現代の日本を現しているかのよう。緊迫感溢れる展開には読む者を引きつけて止まない。是非一読を。

